

原 著

## 看護のアイデンティティー、その9： 看護職に望まれる態度・行動についての看護学生、新人看護師、 年長看護師3集団の価値観の分析

工藤 二郎\*    小田 日出子\*    窪田 恵子\*\*    中馬 成子\*\*\*

### ＜要 旨＞

この研究は、看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育する目的で行った。我々はこれまでに看護職のアイデンティティーについて学生と看護師、新人看護師のアンケート結果を8報にわたって分析してきた。今回は看護職に望まれる態度・行動の26キーワードについての年長看護師、看護学生、新人看護師、3集団の価値観の統計学的分析を行った。

アンケートは本学の卒業後2か月の新人看護師59名、2年目の看護師58名、卒業後3年目の看護師63名に送られ、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。新人看護師による回答は30通、2-3年目の看護師による回答は36通であり、看護学科1年生からの回答は22通であった。彼女らの回答に基づき、最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から22番の各キーワードの得点を新人看護師、看護師と学生の3種類にデータベース化し、第8報と同様、各グループの平均値の検定である分散分析を行った。

学生と年長看護師の間では“自己研鑽”が年長看護師で有意に平均点が高く、“明るい表情ときびきびした動作”が学生で有意に平均点が高かった。新人看護師と学生の間では、新人看護師で有意に平均点の高いものは無く、“きびきびした動作”と“プロ意識”をもつが有意に学生の平均点が高かった。新人看護師と年長看護師の間では、“プロ意識を持つ”が有意に年長の看護師で平均点が高く、“身だしなみ”、“整理整頓”が新人看護師で有意に平均点が高かった。これらの結果に基づいて看護教育の可能性について考察した。

キーワード：アイデンティティー、看護教育、自己研鑽、行動、看護学生

### はじめに

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学の教育をすることはあらゆる看護大学の課題である。これにより学生は看護に対するアイデアを尽きること無く刺激され、看護職についたあとも臨床の場で職務の達成が容易なものとなるであろう。大学教育に役立つため、我々は次のような3つの問いかけをもちながらこの研究を進めてきた。職務を遂行する現場で、看護師は何を重視しながら働いているのだろうか？ 学生、新人看護師、年長看護師となることにより、その価値観はどのように変化するのだろうか？ 看護師とし

て重要な価値観は看護学生にどのように教育できるであろう？ これらの問いかけを行いながら、われわれはこれまでに看護のアイデンティティーに関する8つの報告を行ってきた。<sup>1)8)</sup> それらは看護に関するキーワードの選択と質問表の作成に始まり、看護師の資質や個人的行動、社会的行動、看護技術、看護倫理の5カテゴリーにおける看護師と学生との価値観の相違を検討したものであった。前回の報告では看護学生、新人看護師、年長看護師の3者について、看護者の資質に関する価値観を比較し統計的に分析したが、学生では評価の低い“自己省察”が、看護師では有意に価値観が高く、新人看護師も同様に有意に高い事を見出し

\* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 教授  
\*\* 福岡女学院看護大学 教授

\*\*\* 関西看護医療大学 准教授

た。そのほかにも新人看護師の価値観は年長看護師の価値観に類似するものがあった。<sup>8)</sup>

今回の報告では、第一報により抽出された152 キーワードのうち第2カテゴリーの、看護職に望まれる態度・行動<sup>3)</sup>について、看護学科1年次の学生、看護職について2か月の新人看護師、看護職の経験が1年を越えている年長看護師の3グループの価値観がどのように変化するか統計的な分析の結果を報告する。

この研究は、看護職について比較的若い看護師が自覚しているアイデンティティーを明白にする試みである。各カテゴリーについての分析が完遂することにより、看護職におけるコンピテンス（能力、資質、有能さ）<sup>9)10)</sup>が、根拠をもって教育できるようになる可能性がある。

## 方法

### 1) アンケートとその中の各キーワードの配点法及び操作

アンケートの内容は既報の通り<sup>7)6)</sup>であるが、再度概略を説明する。著者らが看護学生の看護職に関するレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または看護倫理の5つに区分けされた<sup>1)</sup>。この各5カテゴリーより10の重要な語句を各人に選んでもらい、学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行った。これにより選ばれたキーワードに10段階の得点差を与える事ができる。アンケートは本学の卒後2か月の新人看護師59名、2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。なお、倫理的配慮としては、本研究は西南女学院大学の倫理審査委員会で承認されたものである。

今回の分析は第2カテゴリー、看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動についてである。各キーワード番号順に得点を抽出、総和し、各キーワードの総得点を卒後1年以上の年長看護師回答数で除して平均し「年長看護師行動指数」とした。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生行動指数」を求めた。同様に新人看護師についても「新人看護師行

動指数」を求めた。この平均値の各グループ間での比が高いものほどそのグループでの価値観が高まるものと推定した。

### 2) 年長看護師と学生とで価値観の差があるキーワードの分析

得点の平均値にて、年長看護師得点/学生得点の比が最も高いものから降順に並べると学生に比し年長看護師が重要と考える概念の順番が明らかとなる。一方、その比が最も低いものは学生が看護師に比して重要と考えるものである。この操作によって平均値の差の顕著なキーワードが目に見えるようになる。ただし、比のみではサンプル数の少ないものや低得点のものまでも重要なキーワードと誤られる。したがって、全てのキーワードについて統計学的に分析・検定した。

### 3) 新人看護師と学生とで価値観の差があるキーワードの分析

2-3か月の経験のある看護師を新人看護師と総称した。上と同様、得点の平均値の、新人看護師得点/学生得点の比が最も高いものから降順に並べ全てのキーワードについて検定した。

### 4) 年長看護師と新人看護師とで価値観の差があるキーワードの分析

2)、3)と同様、年長看護師と新人看護師の価値観の差も分析可能である。看護師得点/新人看護師得点の比の数値を降順に並べ検定した。

### 5) 平均値の検定

年長看護師行動指数と学生行動指数、新人看護師行動指数は、看護師と学生、新人看護師が配点をした各キーワードにおける得点の平均値であり、これら間に差があるかどうかは平均値の検定である一元配置分散分析によって行った。分散分析は統計ソフトを用いて行い、有意水準5%で検定した。

## 結果

### 1) アンケートの回答数

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職後、2-3か月の看護師からの回答は30通であっ

た。本学看護学科1年生からの回答は22通であった。この中には看護職の経験のある学生はいなかった。やや回答数は少ないが統計学的には分析可能であり、有意検定にてp値が観測しうる。

2) 平均値の検定

一元配置分散分析の目的は複数の平均値が等しいか否かを検定することである。従って2つの標本平均が

きわめて大きく異なっている場合、その2つの平均値は異なる証拠といえる。それぞれの検定結果は表1のように分散分析表で表わされる。学生、看護師、新人看護師の3組を同時に表にすることも可能であるが、ここでは一見して理解可能なように、年長看護師と学生について、3番のキーワードについての分散分析表を示す。3番のキーワードは“自己研鑽”である。有

表1：“自己研鑽”への看護学生と年長看護師による配点に関する分散分析表

分散分析: 一元配置

概要

グループ	標本数	合計	平均	分散
年長看護3番	36	76	2.111111111	11.01587302
学生3番	22	13	0.590909091	2.348484848

分散分析表

変動要因	変動	自由度	分散	観測された分散比	P-値	F境界値
グループ間	31.55729711	1	31.55729711	4.063728127	0.048621191	4.012973319
グループ内	434.8737374	56	7.765602453			
合計	466.4310345	57				

表2：カテゴリ2の看護職に望まれる行動・態度に関する26キーワードの年長看護師と看護学生での得点表

キーワード番号	内容	学行動指数	看行動指数	看/学生	有意の有無
10	科学的態度	0.27	1.11	4.07	NS
3	自己研鑽	0.59	2.11	3.57	P=0.0486
25	研究をする	0.23	0.81	3.54	NS
14	良い友人を持つ	1.18	2.78	2.35	NS
23	電話対応を身につける	0.41	0.92	2.24	NS
19	正確な情報を得る	3.05	4.72	1.55	NS
13	物事に取り組む姿勢	2.86	4.28	1.49	NS
24	最新情報に関心を持つ	1.36	1.81	1.32	NS
22	書類、手紙の書き方	0.36	0.44	1.22	NS
17	正しい予測をもち行動	3.27	3.78	1.15	NS
15	きちんとした姿勢	0.95	1.06	1.1	NS
5	継続的学習	3.45	3.78	1.09	NS
18	確認する	4.23	4.36	1.03	NS
26	プロ意識をもつ	3.64	3.25	0.89	NS
6	笑顔	5.36	4.39	0.82	NS
1	手順良い仕事	5.86	4.61	0.78	NS
7	明るい表情	5.64	3.69	0.66	P=0.0466
4	自分の健康管理	5.09	3.14	0.62	NS
16	きびきびした動作	3.55	1.67	0.47	P=0.0273
21	訪問のマナー	0.14	0.06	0.41	NS
2	服装、髪等の身だしなみ	1.91	0.53	0.28	NS
20	整理整頓	1.5	0.19	0.13	NS
8	廊下を走らない	0	0.11	0	NS
9	ドアを足で閉めない	0	0	0	NS
11	大きな音をたてない	0.05	0	0	NS
12	大声で話さない	0.05	0	0	NS

注) キーワードごとに得点を抽出、総和し、年長看護師回答数の36で除して平均し「年長看護師行動指数」とし、学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生行動指数」を求めている。それらの比である「行動変化指数」で降順に並べたあと、最右列に分散分析での有意検定のp値を記載している。

意水準5%で検定し、観測された分散比、すなわちF統計量が4.0637でF境界値4.0129よりも大きいため、平均に差があると検定され、このときのP値は0.0486であった。

### 3) 年長看護師と看護学生間の分析

番号が1番から26番までのキーワードの得点の看護学生での平均値と年長看護師での平均値が求められ、それぞれ表の学生行動指数と年長看護師行動指数の列に記載され、それらの比も求められた。表2は年長看護師行動指数/学生行動指数の比が大きいものから降順に並べたものである。この数値が非常に大きいか、逆に非常に小さい場合は看護師と学生が配点したキーワード得点の平均値が異なる証拠となる。このため年長看護師/学生の数値が1に近いものは有意差が観測されなくなる。また、表2の最上行の10番“科学的態度”のように配点した人数が少なく、得点が低い場合も有意差が観測されない。言い換えれば、両グループ間であまり変化の無いキーワードや、少ししか得点できないキーワードは排除されることになる。この結果、年長看護師が学生に比し有意に重要と考えるものは“自己研鑽”であることがわかる。一方、看護学生が

年長看護師よりも有意に重要と考えるものは“明るい表情”と“きびきびした動作”であり、それらのp値はそれぞれ0.0466と0.0273であった。

### 4) 新人看護師と看護学生間の分析

表3は新人看護師行動指数/学生行動指数の比が大きいものから降順に並べたものである。表のように、新人看護師が学生に比べて有意に高く評価するキーワードはみられず、学生が有意に高く評価するものに、“きびきびした動作”と“プロ意識をもつ”があった。それらのp値はそれぞれ0.0203と0.0179であった。

### 5) 年長看護師と新人看護師間の分析

表4は年長看護師と新人看護師が各キーワードに与えた配点の表であり、上記と同様年長看護師行動指数/新人看護師行動指数の比が大きいものから降順に並べたものである。年長看護師が新人看護師に比べ、有意に高く評価するものは、“プロ意識をもつ”でp値は0.0304であった。一方、新人看護師は年長看護師に比し、有意に高く評価するものは“服装、髪等の身だしなみ”と“整理整頓”であり、それぞれp値は0.011と0.042であった。

表3：看護職に望まれる行動・態度に関する26キーワードの新人看護師と看護学生での得点表

キーワード番号	内 容	学行動指数	新看行動指数	新看/学生	有意の有無
12	大声で話さない	0.05	0.4	8	NS
11	大きな音をたてない	0.05	0.36	7.2	NS
3	自己研鑽	0.59	1.93	3.27	NS
21	訪問のマナー	0.14	0.33	2.35	NS
10	科学的態度	0.27	0.43	1.59	NS
15	きちんとした姿勢	0.95	0.5	1.52	NS
18	確認する	4.23	6.03	1.42	NS
13	物事に取り組む姿勢	2.86	3.76	1.31	NS
19	正確な情報を得る	3.05	3.9	1.27	NS
6	笑顔	5.36	4.46	1.25	NS
14	良い友人を持つ	1.18	1.43	1.21	NS
2	服装、髪等の身だしなみ	1.91	2.2	1.15	NS
5	継続的学習	3.45	3.9	1.13	NS
4	自分の健康管理	5.09	5	0.98	NS
22	書類、手紙の書き方	0.36	0.33	0.91	NS
17	正しい予測をもち行動	3.27	2.93	0.89	NS
1	手順良い仕事	5.86	5.2	0.88	NS
24	最新情報に関心を持つ	1.36	1.2	0.88	NS
7	明るい表情	5.64	4	0.71	NS
25	研究をする	0.23	0.16	0.69	NS
23	電話対応を身につける	0.41	0.26	0.68	NS
20	整理整頓	1.5	0.93	0.62	NS
16	きびきびした動作	3.55	1.66	0.46	P=0.0203
26	プロ意識をもつ	3.64	1.53	0.42	P=0.0179
8	廊下を走らない	0	0.53	0	NS
9	ドアを足で閉めない	0	0.46	0	NS

表4：看護職に望まれる行動・態度に関する26キーワードの年長看護師と新人看護師での得点表

キーワード番号	内 容	看行動指数	新看行動指数	看護/新看	有意の有無
25	研究をする	0.81	0.16	5.062	NS
23	電話対応を身につける	0.92	0.26	3.538	NS
10	科学的態度	1.11	0.43	2.581	NS
26	プロ意識をもつ	3.25	1.53	2.124	P=0.0304
15	きちんとした姿勢	1.06	0.5	2.12	NS
14	良い友人を持つ	2.78	1.43	1.944	NS
24	最新情報に関心を持つ	1.81	1.2	1.503	NS
22	書類、手紙の書き方	0.44	0.33	1.333	NS
17	正しい予測をもち行動	3.78	2.93	1.29	NS
19	正確な情報を得る	4.72	3.9	1.21	NS
13	物事に取り組む姿勢	4.28	3.76	1.138	NS
3	自己研鑽	2.11	1.93	1.093	NS
16	きびきびした動作	1.67	1.66	1.006	NS
6	笑顔	4.39	4.46	0.984	NS
5	継続的学習	3.78	3.9	0.969	NS
7	明るい表情	3.69	4	0.922	NS
1	手順良い仕事	4.61	5.2	0.886	NS
18	確認する	4.36	6.03	0.723	NS
4	自分の健康管理	3.14	5	0.628	NS
2	服装、髪等の身だしなみ	0.53	2.2	0.24	P=0.011
8	廊下を走らない	0.11	0.53	0.207	NS
20	整理整頓	0.19	0.93	0.204	P=0.042
21	訪問のマナー	0.06	0.33	0.181	NS
9	ドアを足で閉めない	0	0.46	0	NS
11	大きな音をたてない	0	0.36	0	NS
12	大声で話さない	0	0.4	0	NS

## 考 察

カテゴリ2の看護職に望まれる態度・行動についての26キーワードないし名詞句について看護学生と就職後間もない新人看護師、より年長の看護師の3者の価値観を統計学的に分析した。年長看護師が学生に比し有意に高い配点を与えた“自己研鑽”は、英語ではself-learningないしself-directed learning (SDL、自己主導型学習)などが近い概念のように思われる。近年よく使われ、口語的でありかつ自己主導を含む“学び”や各領域で使われる“生涯学習”という言葉もその周辺にありそうである。看護職が生命に直結した職業であり専門職として重視されることへの責任感から、年長看護師は“自己研鑽”を重要な価値として選んだものと考えられる。一方、現場経験の無い学生はそれほどの重要性を自覚していないのであろう。

SDL (自己主導型学習) の看護系の研究は我が国では旭川医科大学グループの看護学領域で活発に行われ、ネット上にも公開されている。<sup>12)14)</sup> 彼女らはSDL Readiness Scale (自己決定型学習の準備性尺度) を用いて自己学習能力に焦点をあて、学生の学習到達度に関連性のある要因を分析した。その結果自己決定型

学習の準備性や卒業時の自己効力感などをその要因としてあげている。この結果は考え込ませるものであり、学生の準備性や自己効力感はどのように教員がサポートできるであろうかという疑問が生じる。これらは今のところ心理学や教育学の領域で議論されるもののように思われる。東北大学シンポジウムでの議論の中の、教員が身につける方法論<sup>15)</sup> がそれに相当するかもしれない。それらは、教員が初年次の少数ゼミにおいて学習者のセルフマネジメントをケアする、また、学習者のコミュニケーションをケアするなどの方法である。

一方、看護学生が年長看護師よりも有意に重要と考えるものは“明るい表情”と“きびきびした動作”であった。これらはやはり看護職には重要な価値として有るべきものと考えられるが、年長看護師では順序としては重要度が低く、自覚しなくても満足されている可能性がある。

新人看護師と学生の間では新人看護師が有意に重要と考えるものは無く、他方、学生が“きびきびした動作”と“プロ意識を持つ”の2つを有意に重要視していた。後者の“プロ意識を持つ”は、次に述べる年長看護師と新人看護師の間で年長看護師に有意に価値観が高

い。この結果を見ると、“プロ意識を持つ”は学生でまず価値観が高まるが、新人看護師で低くなり、年長看護師で再び価値観が高まるものである。現実の看護現場を考えると、新人看護師の場合、適応にかなりの困難があり“プロ意識を持つ”決定的な場面に遭遇機会が少ないのではないかと考えられる。

年長看護師と新人看護師の間では年長看護師が新人看護師に比べ、有意に高く評価するものは、“プロ意識をもつ”である。年長看護師の場合、この意識によって対処すべき場面が頻会に訪れることが想像される。もしこれら両者の比較がなければ、年長と新人看護師の状況を想像する余地は無かったと思われる。新人看護師が年長看護師に比し、有意に高く評価するものは“服装、髪等の身だしなみ”と“整理整頓”であり、これらが新人看護師の現場状況を表す価値観であろう。年長看護師と新人看護師の“プロ意識をもつ”の差は、現実には患者と向き合う専門職としての経験差により個人によって体得されたものと考えられる。そして、年長看護師と学生の指摘するプロ意識は、現実性において明らかに差のあるものであろう。

以上、学生、就職直後の看護師、より年長の看護師3者の価値観の差について第2カテゴリーの中の分析を行った。この方法で統計的に選択されるキーワードから、今後はより根拠に基づいて教育やそのアセスメント、さらに看護職の分析が行われうるものと期待される。

## 文 献

- 1) 工藤 二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティ：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか。西南女学院大学紀要. 5: 1-8, 2001
- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その2：看護の資質についての大学生と看護婦の価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 6: 10-17, 2002
- 3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その3：看護の行動パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 7: 19-26, 2003
- 4) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その4：看護職に重要な社会生活パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 8:1-8, 2004
- 5) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その5：看護技術に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 9: 1-8, 2005
- 6) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その6：看護倫理に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要. 10: 1-9, 2006
- 7) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その7：看護のアイデンティティの自覚度を測定する簡易な質問表。西南女学院大学紀要. 11: 1-8, 2007
- 8) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その8：新人看護師の看護資質の価値観は学生に比して年長の看護師の価値観に類似する。西南女学院大学紀要. 12: 1-7, 2008
- 9) Utley-Smith Q : 5 competencies needed by new baccalaureate graduates. Nurs Educ Perspect. 25, 166-170, 2004
- 10) Calman L : Patient's views of nurses' competence. Nurs Educ Today. 26, 719-725, 2006
- 11) Cowan DT, Norman I, Coopamah VP : Competence in nursing practice : A controversial concept-- A focused review of literature. Nurs Educ Today 25, 355-362, 2005
- 12) 松浦和代, 阿部典子, 良村貞子, 神成陽子, 升田由美子, 阿部修子, 浜めぐみ：日本語版 SDLRSの開発－信頼性と妥当性の検討。日本看護研究学会誌, 26, 1-9, 2003
- 13) 山内まゆみ：助産学生の実習到達度とその関連要因の分析。旭川医科大学研究フォーラム. 8, 25-35, 2007
- 14) <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=2008196300>
- 15) 東北大学高等教育開発推進センター編：大学における「学びの転換」とは何か。pp113-125.東北大学出版会。仙台。2008

Identity of Nursing (Part 9):  
Analysis of the Difference in Estimation of Personal Behavior for Nursing  
among Student Nurses, New Nurses, and Elder Nurses.

Jiro Kudo\*, Hideko Oda\*, Keiko Kubota\*\*, Nariko Chuman\*\*\*

<Abstract>

The purpose of this research was to clarify a nursing identity and to educate student nurses based on that clarified identity. We previously showed the results of our analysis of the survey concerned with nursing identity obtained from student nurses, new nurses, and elder nurses in eight reports. In this paper we compared the estimation of personal behavior for nursing among the above three groups using 26 keywords. The score of each of the 26 keywords was analyzed with one way analysis of variance similarly to the seventh report.

Questionnaires were sent to 59 nurses with 2 months experience, 58 nurses in their 2nd year, and 63 nurses in their 3rd year who graduated from our university, and were also sent to the 99 1st grade students in our nursing course. Answers obtained from nurses with 2 months experience, 2nd and 3rd year nurses, and student nurses numbered 30, 36, and 22, respectively. The most important key word they selected was allotted 10 points, the second 9 points, and so on, then every point of each key word was processed in three databases for new nurses, elder nurses, and student nurses respectively.

Between elder nurses and student nurses, “self-learning” was more highly evaluated by elder nurses, and “bright expression with fast coping” was significantly more highly evaluated by student nurses. Between new nurses and student nurses, “bright expression with fast coping” and “professionalism” obtained significantly higher scores from student nurses. Between elder nurses and new nurses, “professionalism” obtained significantly higher scores from elder nurses, and “proper appearance” and “tidying and regulation” obtained significantly higher scores from new nurses.

We discussed the possibility of student education concerning personal behavior based on these results.

Key words: identity, nursing education, self-learning, behavior, student nurses

---

\* Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

\*\* Professor in the Fukuoka Jogakuin Nursing College

\*\*\* Associate Professor in Kansai University of Nursing and Health